

第1号議案

平成23年度事業報告承認の件

1、NPO法人丹波・みわの活動

1) 役員体制

- ①理事の集団指導体制については一部の活動に終わった
- ②山口副理事長が途中辞任となり、副理事長に岡村、高橋理事を選任、主に三和荘運営について協議を行った

2) 会員の拡大

- ①500人目標を設定して取り組んだが定期的な進行状況の確認ができなかった
- ②レストラン、風呂利用者に対する入会呼びかけを積極的に行うことによって会員拡大に結び付ける取り組みは部分的ではあるが成果があった

3) 企画広報活動

- ①機関紙「丹波・みわ」は、宮内理事の協力で充実を図った
- ②より広範囲の動きを掲載するために通信員制度を検討する必要がある
- ③HPの定期的更新を行った
- ④ブログは一日平均100件のアクセスがあった

4) イベントの充実

- ①みわ夏祭りは実行委員会方式に改め充実を図った
- ②採算ベースを検討し従来実施してきたカラオケ大会、演奏会等は取りやめた
- ③公民館、学校と連携した料理教室を実施した
- ④観光協会、商工会などと連携し三和マップを作成した
- ⑤あゆまつり、三和フェスタ、うぶやの里フェスタなどの実行委員会に加入し共同開催した

5、文化、スポーツ

- ①スポーツ振興会の各種大会、ペタンク大会、特産品ゲートボール大会などへの援助を行った
 - ②文化協会、雑誌「文化」への援助、俳句「大原志」への援助を行った
- 5) 丹波みわ活性化協議会、みわコトおこし協議議会に参加し一定の役割を果たした
- ①丹波みわ活性化協議会は他都市調査を中心に活動この取り組みに参加した
 - ②コトおこし協議会は「軽トラ市」を実施4,000人の参加で成功させた

2、指定管理事業「三和荘及び周辺施設」

23年度決算は若干の黒字決算となった。しかし、当初の売り上げ目標2億1千万円には届かなかった。とりわけ、宿泊が低迷した。また、市が公認会計士に依頼し三和荘会計に「不正」があるかの如く10回にわたって調査があった。結果は適正であるこ

とが判明し、加えて、今後の課題について適切な指導、研修を受けた。

1) 宿泊

- ①稼働率目標60%に対して %にとどまった
- ②東北大震災以降ビジネス客利用の減少
- ③企業、労働組合の利用減少

2) 宴会

- ①同級会、法事利用の定着
- ②宮参り、753パックなど大原神社、写真店と提携チラシの作成
- ③長田野工業団地、老人クラブへの営業活動
- ④京都市内の大学へパンフ送付

3) レストラン

- ①新メニューの開発による利用者増と原価率の引き下げ
- ②一部営業時間の変更（午前喫茶閉鎖）
- ③衛生管理（検診、研修）

4、多目的ホール、ギャラリー

- ①ホールの利用目的多様化
- ②ギャラリーの常設展
- ③利用料の改正（非営利と営利区分）3月市議会

5) 入浴施設

- ①回数券の利用拡大（大口回数券）
- ②浴場施設の劣化による費用負担増
- ③燃料費の高騰
- ④委託の縮小、直営化で費用負担の軽減
- ⑤宿泊者朝風呂の営業時間の変更（6時～8時）

6) 売店

- ①地元産品、季節の物の拡大が課題

7) スポーツ施設

- ①高校、大学の誘致
- ②ナイター設備の補修

8) 三和荘農園

- ①獣害対策が必要

9) 職員研修

- ①主任リーダーの一泊研修
- ②主任リーダー会議の定例化
- ③部門別目標の設定
- ④毎日のミーティングの実施

10) KESの取り組み

- ①電力、コピー、生ごみ削減目標設定し実践。生ごみの目標設定の再検討
- ②歯ブラシ、かみそりについて徹底、かなりの効果
- ③エコツーリズム（道路美化作業）他企業、団体への拡大が課題

11) みわ倶楽部

- ①各種イベントのサポート
- ②先進地への視察（美山）

3、過疎、福祉有償運送事業

1) 福祉有償運送事業

- ①民間病院が送迎を拡大する中で利用者の伸び悩み
- ②福祉ネットワークで市に要望、利用券補助手数料引き上げ（10%～15%）

2) 過疎有償運送事業

- ①過疎地有償運送にも一部補助金を交付
- ②系統的な宣伝

3) 買い物代行サービス

- ①年間利用者 1件
- ②宣伝不足